

医学部医学科

内科学講座

**研究テーマ：クローン病による小腸良性狭窄に対するリムーバブルステントの開発**

**キーワード：リムーバブルステント、クローン病**

**予測される技術成果・効果：**

クローン病などにより生ずる良性狭窄  
に対する手術回避

**事業化が期待できる分野：**

リムーバブルステントの作成

**概要**

炎症性腸疾患のなかでもクローン病は口腔から肛門までの消化管全体に非連続性の炎症及び潰瘍・狭窄を起こす原因不明の疾患である。依然として内科的治療に抵抗性で狭窄解除目的に手術加療が必要となることが多い。今回、我々はこのような炎症を原因とする小腸良性狭窄に対するリムーバブルステントの開発を行い、患者の手術を回避することにより長期予後・QOLの改善に寄与したい。



ふり がな つじかわ ともゆき

**名前 辻川 知之**

職名 講師

主な経歴：1986年滋賀医科大学医学部卒業、1990年滋賀医科大学医学部大学院卒業、2006年10月滋賀医科大学消化器内科講師  
所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本静脈経腸栄養学会、日本消化吸収学会、日本老年医学会、日本膵臓学会、

**■ 内容**

近年バルーン小腸内視鏡による小腸の観察が可能となりましたが、症状が安定していても約30%の症例で吻合部や小腸に狭窄を認めることがわかってきました。現状では拡張バルーンを使用することにより狭窄部を拡張し、狭窄を解除する治療を行っていますが、慢性炎症がベースにあるため残念ながら数週間で再狭窄を来すことがあります。そこで、我々は回収可能な金属ステント（現在、保険医療で使用可能な金属ステントは永久留置が原則となっています。）を狭窄部に留置したのち、約2週間ほどで抜去することにより狭窄部の拡張状態を長期間維持できるのではないかと考えております。クローン病の患者さんのなかには頻回の手術加療を余儀なくされる方もおられるため、このような治療が実現できれば、手術回避が可能になると考えます。

特許・共同研究等の状況	なし
希望する連携形態	共同研究
希望提携業種	ステント製造関係

Shiga University of Medical Science

お問い合わせ先：滋賀医科大学 産学官連携担当

TEL：077-548-2082

FAX：077-548-2086

E-mail：hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp